

9月議会本会議一般質問 しもおく議員

しもおく議員は、10月2日の本会議で、①災害対策 ②熱中症対策 ③性暴力被害者支援 ④看護修学資金の4つのテーマで質問しました。



災害対策の抜本的強化を

しもおく議員は、危険なブロック塀の撤去を県の財政支援も含めてすすめること、避難所へのエアコン設置、水位計や監視カメラの設置、河川の改修や堤防のかさ上げなど豪雨対策、閑空での浸水被害をふまえた中部国際空港の総点検と災害対策強化、避難所の確保と充実等について問い合わせました。

県は、「エアコンの整備は市町村で推進してもらう」と答弁。中部国際空港については、「伊勢湾台風時の潮位を想定しており、空港機能の維持は可能」と答弁しました。また、「水位計は順次増設していく、今年度は50基増設していく。河川改修に向けた必要な予算の確保に努めていく」と答弁しました。

しもおく議員は、県民の命と生活を守るのが県の役割と指摘し、「従来の枠にとらわれない災害対策の強化」を強く求めました。

エアコン設置など熱中症対策を

しもおく議員は、豊田市の小学生が熱中症で亡くなつたことをふまえて、「子どもが命を落とすようなことは二度とあってはならない」と学校でのエアコン設置などを迫りました。県は、エアコンの設置について、9月1日時点で公立小中学校のエアコン設置率が42.1%であり、約半数の学校が19年度に空調設備の新設・更新が計画されていることを明らかにしました。

しもおく議員は、東京都では都が財政支援を行うことでほとんどの小中学校にエアコンが設置されていることを示して、「県独自の財政支援を行うべきではないか」と追及しました。県は、「学校施設の整備は市町村の責務」だとし、「国に予算確保の働きかけを行っていく」と述べるにとどまりました。

性暴力被害者支援の施策の拡充を

しもおく議員は、性暴力被害者支援の施策の拡充を求めました。特に、性暴力被害者に対して中心的支援を行う「性暴力被害者ワンストップ支援センター」の周知徹底や東三河への設置を求めました。県は周知について、「効果的な配布方法についてさらに工夫していく」と答弁。東三河などへの設置については、「地域の実情を把握して、その支援のあり方を研究していく」と述べました。また、支援センターに対する国の補助制度を愛知県が利用していないことについて、「支援のあり方を研究していく」と述べました。

しもおく議員は、「被害に遭って孤立してしまっている人に対して心に寄り添う支援が必要だ」と主張しました。

看護修学資金貸付の拡充・継続を

愛知県は、看護師をめざす学生への看護修学資金について19年度から新規の貸付を中止するとしています。

しもおく議員は、「看護師人材確保のために、この制度を廃止するのではなく、内容を拡充して継続すべきではないか」と求めました。



本会議で登壇する、しもおく奈歩議員